



沙室家
藏

特別
~5
6698
2



沙金袋目錄

春草 土筆付葉 田付葉 歸雁

楊付楊柳 花 春月 若和布

松若綠 若結 蕨 燕

雲雀 蛙 雉子 蝶

椿 草 桃付上巳 躑躅

梨花 海棠 呼子鳥 百子鳥

藤 山吹 辛夷 春日

人丸誦式 乃拭 付壬生千本念佛

春郭公

三月盡 雜



沙金袋 賦

春

春草

ありあもやまこくんの山桃野草
 善種
 蒨出といふあつらん物つあき
 素白
 摘人や素えんともいふあき
 春元
 名草のひこくろや馬子結右子
 光正
 蒨をうりくろくろくろくろく
 大瀆
 元春
 けいこひでんすくせわこるりよめり萩
 勝直

神さきふらさく女乃せのり 鬼筋 河列小寺村 重久

筋出ふふ二葉るく角り 鬼筋 日 一文

あまや花火能野鳥の焼びらり 一有

版立やのこそくつびよめり 森 京 敬心

雨ふらそきやうり物 穀草 不智著

うらめしと花ようみゆき 鬼筋 金田 治長

野と焼きたやとあわう 矢若草 塚 頼廣

男山とくろくくみの 鏡もり 那 日 常願

高きくきつと神とくろくまきけ 日 宗安

咲んつとくろくなんたんと 穀草 紀列田巻册民 定勝

色と神出く 養ふもやたの 穀草 秋田 善種

穀草乃露の王母るきく 京 善為

着ふよこ 刀葉とくる寸 塚め 京 正業

あまききとくろく者乃 造や石 大坂 元奇

根と志のふらむじく 大坂 久勝

くくくらは 似あひのや 大坂 正在

雲乃 飯さくくあ 大坂 光正

りあまうらまよ 大坂 素白

くそにわひく 小寺村 善種

人あまのお見とい 小寺村 義知

念佛海老志のそとやちこりけ 金 治長

蜜海老の二介して摘よめり萩 正在

急ちよりのこ中なるまやよめり萩 月

高出るいすくおらいらの毛鹿か 月

去り野のわけどの流りよめりそび 勝安

玉辞乃のなや洗けらる鬼茹 河列交野 正伯

味うしと口ようてくや穀草 水影

をそくつめしすうたらんかの野原か 可雪

ぬ志んうまや祿よの出来ぬ落れさ 萩内 紹節

下子りりもこまやうこられや若鳥 俗暉

望し山の懸やむいんか武志とこら 宗暉

さく苑よおらひつきの野たうか 月

まじよの野くよらまひまきま 月

ひいたよやーかいんか若よの原 月

あまやうらうら中一のよめり萩 佐野 月 教心

めと出すとらひらけらやよめり萩 前田 正勝

あんなもやらまらまらあら萩 頼廣

聲のあんなだそらひらけらやよめり萩

花生乃竹也 疾骨金砂花 貞富
 坤つとこあふやうはるの金鉄花 正伯
 山こし乃のひるるわきもや金鉄花 河列 安吉

土筆 付叔業

去乃いよ入筆もまや土筆 素白
 野りこてふくもいふらん土乃笔 月
 信くしとまとおもらん野原小 光正
 りくつる雨氣といらん去の筆 前田 正勝

あよは絵とわくり控乃去の筆 泉列并中 宗晴
 さりともくいふこい筆もまやつくし 紀列田 真信
 信まためり筆つくとらん信くし 霖月
 袴若乃福状をうけ去乃笔 則正
 筆のたきとらん人書けの去筆 善種
 筆乃味やらんよゆを道思つくとし 春元
 引おそ人丸かんよ土乃筆 正在
 土の筆やまお棚乃 至合 一有
 子替乃若の志うや去乃筆 正伯
 橋乃おわとよの去や信くし 教心

筆乃の法よ秋葉そそ去の筆 大坂平山 往長

ふ山ちる閑帳よまうつるそそ

お坂山あそ

おふふ人のあつ坂山を秋葉そ 宗畔

せんよつび山田のそそ秋葉そ 以專

田返 蕨代

わらよと死の牛のうけふるたを死水 棟 重利

蕨よあつ田とく牛のあつひ 日 方房

田返すもつらひまうふ牛つらひ 善種

秋人田牛の書よなるそそ

うらぬと田より秋田牛 日

つらふそそあつてぬあ田 安成

上代やゆつるもぬす小田乃原 大坂 好道

よらまのうら行田をぬせ敷力 可雪

あき岩と糸指乃の云葉此

中一を養ひあそ

めりしおし耕りしやめれたと 善種

用ふよまらる苗代やあれたと 一武

苗代いたらう者田の平地 貞晨

苗代やあめりよまうらうちの徳 素白
 くらみきりみる縁の松と田面水 正伯
 中飲もみきりしたまのりさ梅田うれ 素白

帰鷹

帰鷹をともまらふおあせ巴うま子 堺 一武
 そつもうふあ鷹の羽音やこいの花 大坂 光正
 鷲とおびらおひくはようゆる鷹 大坂 見清
 おやうてまうまは帰鷹あ鷹 石巻 一入子
 おまのひのりおやひるうふ天津鷹 春元

花の錦けん捨くわあせ帰鷹あ鷹 田中氏 正業
 おへこじおまやあまのひくゆる鷹 正在
 落鷹の竹はあわのまきゆる鷹 姫路 秀重
 立ゆる鷹のすくまのざらま子 大坂 貞富
 野もま登りおま井あうふゆる鷹 京 氏長
 ひくくわあまうくつまきゆる鷹 一有
 雲門の竹葉うへりう天津鷹 姫路 春元
 湯氣あや已りあまの色帰鷹 知重
 花も根よる色又孫よ帰鷹 教心
 しらわのく鷹乃桐子やうふ鷹 善種

幾や雲霧を日けく帰る鳥
 一葉やいとまのしゆく帰る鳥
 丸木鴉うきまじしゆく帰る鳥
 見帰るあやむらひの帰る鳥
 李主人のまづりぬる鳥
 ゆら鳥の福をこころよせよ鳥
 かじらわかつくまじしゆく帰る鳥
 春元
 正伯
 日
 素白
 日
 日
 日
 日

楊 付楊綢楊苔
 楊貝

神龜りやまの志くく帰る鳥
 先正

楊井の花のこころいけ中
 いのまつく國やゆくき帰る鳥
 みる人の枝よそく大楊
 地まの候の火一火ひり楊
 年と終るをのけくく帰る鳥
 塩竈の花のこころいけ中
 花あしとよくぬちり見楊
 空路の候花やくまのわし帰る鳥
 奥乃子か楊る七重生小
 鳥と志くく帰る鳥
 善明
 一武
 吉重
 正種
 友之
 政義
 以專
 兵蔵
 重定
 一武

山氏

金田

藤山

金田

徳若乃花や日中一乃若 和列郡山 正行
 花乃るも徳よ隣乃の家様 堺 松安
 代こや花りつこつる 日 家様 頼安
 按とさる久や雅房乃様 京 正時
 八重様乃少しちまきしやまき様 京 利正
 縁てやあめりさる寸の八重様 但列生年 範之
 當乃子若おつか 但 孫や 正為
 花乃子らあまよさくく 但 あり親 勝明
 夫よ雨あま 但 進んしを云サの孫ら 正時
 花乃るも徳よ隣乃の家様 但 以專

風つらそな乃門させ様所 泉列 定正
 風や子あろりわさ吹つり 但 氣様 道可
 殺生乃びじく 但 ぬ様乃りか 勝明
 様乃花やちりり 但 ぬき乃乃時の様 成政
 ま日様よく吹や湯きん此の家の奴 京 宗次
 浪磨て刃んしおさ 但 んん様 松安
 雨乃ど 但 んん様 不雅著
 吹おの 但 んん様 貞勝
 月乃 但 んん様 頼廣
 作つ 但 んん様 道可

三十一

花乃成やくまくや結まるといふ 春元

花乃くそく 花や 敵 大 梅 重長

花やうふん ゆ る ま ま や 梅 丸 之富

花乃らりく り 花 の あ ら や 丸 一清

花乃の社の花乃の 刀

花乃山乃花や 八 梅 修 勢 梅 正信

花乃あんな ま ま の 善 賢 像 素白

花乃作 の 花 を 見 事 や 修 勢 梅 門

花乃 の せ ん の り り か 系 梅 保壽妻

花乃 の あ ら の 目 の 見 ゆ ら 梅 宗清

花乃樹 と い ひ し 色 彼 岩 梅 早井 未勝

花乃 の あ ら の 根 や 壁 下 地 正武

花乃 の あ ら の 樹 梅 元利

花乃 の あ ら の 八 重 梅 康重

花乃 の あ ら の 見 梅 松安

花乃 の あ ら の 見 梅 自安

花乃 の あ ら の 見 梅 廣林

花乃 の あ ら の 見 梅 由之

花乃 の あ ら の 見 梅 正勝

花乃 の あ ら の 見 梅 粟子

人賞うと船よ入れく見極 井世 喜之

花籠よさうけりあし家極 正盛

登ふ人きや行極所 江列 重利

家極あまきさや新乃の家尾 堺 由定

花乃枝をまきりるや家極 頼安

さくさめ乃卒いらくそ城極 光正

つりまわさく山付花を極り子 忠久

高本も家あふのさうよんぶ家極 大濱 元信

極四乃花守人や高おさう 元春

塩竈やあつくと雲深乃極子 春元

本乃うハのさうまきとてやうの極 姫路 又保

花よさうのれら年らさう見極 永置

本末さう清乃家極 頼廣

子路さうて切ら虎乃尾極 松尾 松安

蜻つかよいけくや花をさう八 紀伊田名 利次

極四乃未進をさうや遠極 松尾 昌次

家極こから家よさうと家う水 方角

さうのつ絶つせらるも善極の家極 頼廣

花さうさく人月おさう大極 不知誓

内乃吹方遠さう家さうさう 北村 宗清

物とくさばや 大里 推 家 梅 幸治
 雅も色うじきより ちりも 目 家 梅 本也
 名身しおふ 女色 入 ちり 梅 将 清政
 虎乃尾よ びりふ 小梅 や 春の乃 正近
 佐山 花や けたう ちり 家 ころろ 元信
 花さげし びりふ の まう 焼梅 金雷 光清
 小梅乃 ころろ や 山乃 じり ぬ 重利
 ころろ ころろ 一乃 せ ころろ や 家 梅 金雷 治長
 花 岩 多 梅 乃 の 云 系 の
 中 へ 遍 巡 る 女 へ

わるいころよ ちり ころろ ころろ せ 梅 系 善種
 花 ちり ころろ ころろ ころろ ころろ 大 梅 村上氏 傳祐
 けめ ころろ や 梅 色 長 生 乃 家 梅 稲田 信顯
 山よ 山 山 箱 人 也 山 梅 一長
 善賢 像 乃 花 乃 ころろ ころろ 命 小 傳祐
 嵐 子 ころろ ころろ の ころろ ころろ 見 梅 堺 勝直
 い ころろ せ 色 お ころろ 家 奥 ころろ 梅 長次
 わるい ころろ や 元 花 ころろ 善 賢 像 女藤 宗安
 花 乃 ころろ 色 老 乃 ころろ ころろ 見 梅 素月
 花 乃 山 麻 荷 也 云 系 梅 正行

あつらんやつを引めん侍譽極 大坂 一重

花の浪多きハや三極川 正道

あつらん又けはや 京 城極 豊隆

やまよきををーか乃山の極系 和列郡山 正行

見物さいく花とさある極う那 治定

あつ極やけ子うり乃八重極 銚子 吉重

鳩あつて年かろ急ー城極 銚子 意巡

老乃鬘り冠乃花もうつ極 正在

やううふ花乃すうさや見極 正信

あつてらんせぬ花あつた極小 一重

花衣とけりあを糊り米極 清政

ちろやうらふとあれくふらりう八 春元

山よ住来女とやいらん城極 京 重峯

花乃枝百とくは極よ八重極 桂 吉重

あつらん年ーとつむや城極 終 重昌

遅極らんよとまあさるん城うれ 正覺

ひうらち花乃祿おひや城極 有馬 正近

角よらんさうあやんを大極 林英

佛法乃さうら乃花や善信像 京 直治

花堂とわぐやあふ乃極将 一之

うろくま乃まくてやまうこ作勢極

上田 忠頼

苑乃滝程もろろくん作勢極

加納 納元

大嶽ろろろ乃尾小咲とろろ

貞勝

邪くしつ震乃川の作勢極

可雪

雨を乞ふ云よろろくん大極

自母

家乃風おらあまゆくろ城極

正也

てまよやてま(照ま)大極の苑曇

見笑

塩竈乃ろろやねくまぬ苑の夜

西田 定勝

腰掛けて乃ろろや栲木乃城極

大坂 包好

ろろか苑ひろろよ彩む山極

正種

梅田のろくろく乃あろろまろろか

但列生寺 回山

おあまろろろろろろろろ極ろ

元徳

そまろろの風やあろろろろろ

正也

こくろろやろろ揚美妃の苑の陰

正伯

苑のろろんゆるあ山や極将

月

家極せよろろりたろろ作勢極

月

さろろ咲を山をのろろろろ

月

ひろろ乃下やたのろろむ舞乃苑

月

ろろろせあろろろろろ極乃程ろろ

成政

梅らるるび下ろろや苑むろろ

昌廣

ちりて色しらの土よ海もや婿様
 孫朝や乞の吉野とあ乃真
 そ乃うま包丁もうか孫朝
 喰く味を人よりうん孫朝
 うまうま色い玄葉乃花や孫朝
 善能朝乃網いあやあ孫朝
 花乃浪や乃乃後色の孫朝
 鶴ぞらう花をうさるや孫朝
 和国の原や八十枚も孫朝
 和国海乃うさる孫朝

勝安 昌常 善種 利正 安成 方房 正伯 正伯 正伯 貞晨 元利

生乃浦やあ若は下乃孫朝
 素白

花

三吉野乃花の姿や 大和朝
 正伯

徳野千句才三

あらうま色花のあさる花てうけ
 火ととり寸花乃小枝やうけお
 鹿くハ深そんしあると花衣
 吉野川や花のうがらるる孫朝
 花乃くハ西金よ系ウ八重一重

正在 高田 松安 村山 正房

山乃神さしひらきん花のうきか 春元
 いつまことの花とほは和漢云藤句 素白
 露の父母結木乃花や養乃子 善種
 陽まきやとくほるちと花の奴 謙也
 見よりさや木ころら願う花の只 一山
 花の浪大海るまじや古野山 正定
 長者せんさいつころら花の宿 幸以
 都くころら花乃まおいぬさ 春之
 あつもうろや法乃花よ余念佛 清長
 うつら結やららるる花の風 貞成

月乃花のといふ花乃るま子 重直
 引ありて花乃ゆの花衣 頼廣
 松をとよ花の羽於乃風 宗清
 花乃とよ花の枝 一入子
 葉をむすい花と菊つら花の只 長明
 花乃うけの念まかりま酒京小 成元
 十人の指さすまや花乃宿 定勝
 持ま花乃念よもたせ二そ花 信就
 さつら花乃るんさひら 善良
 鴨らやんるる花のる 宗暉

紀別南の金木氏

北村

京

堺

丹列宮津

膳前敬頼寺

高の書とて花乃りうりの若さよふ 河列春高 東宜

三の野とらんとして一の花盛 全同 知林

見あをせの花も月とよく魚と魚 義元

壽やまに量 壽國乃の花の風 素白

花の又入目やまのむらさき山 月

風よりのとらふやまのまら山 月

つが袖や女侍一ふ衣乃の花衣 月

我回書よまのうて結まら花

ひまはとつらふ乃の花のうらまふ 月

月のあ乃の海雲とるまじや花よ風 河列希忠 清正

一かんのらうおよあう花らう 善明

花むしらのうとる野の禽武小 一有

眩のあう花乃の心の花乃の那 業辰

花もよまのうとる野のちりさき 正在

ふあうとら花たつ袖乃花乃 月

史婦あひのやまうら花と 月

さか花小老まは花やまらた 月

道知 道知

美のよきよめ花付より庭の面 大坂 平利
 南極花さげまぬ入平一の面 大山 謙也
 若野川白ひくくあのお花小 泉列横山 亘詠
 花も細とさくさくあや雨の文 姫路 威能
 花のさよめ蝶さくつらな花 重次
 花のさくつらな花のまじり 紫展
 花のさくつらな花のまじり 重吉
 花のさくつらな花のまじり 正守
 花のさくつらな花のまじり 易之
 花のさくつらな花のまじり 宗時

佳分のよきよめ花付より 正宣
 花のさくつらな花のまじり 堺 安明
 花のさくつらな花のまじり 金田 政次
 花のさくつらな花のまじり 治長
 花のさくつらな花のまじり 平勝
 花のさくつらな花のまじり 意巡
 花のさくつらな花のまじり 幸以
 花のさくつらな花のまじり 秀盛
 花のさくつらな花のまじり 重助
 花のさくつらな花のまじり 道可

花巻よりい山たり年々より飛 治長

凡そその戸名や花のふり門 稲津 重安

白くくつさふる魚たてそ花根 大坂 忠清

あうくつさや親子のつらひ花根 小寺村 重文

花の根おこめらふりる年未小 光正

まよとまよし花蘭とわら祇の臺 月

花を結ら浄土のまの教花樂 月

具山あぐ

朱法といふもし花や心法寺 月

六段の経巻のあぐ

親もも回難あるらと花の命 月

祇園のあぐ

花も祇園その根のあぐ 堺 月

声の自の初の花のあぐ 堺 重利

花のあぐ

双梅のあぐ

花と花のあぐ 翁舟

きうのあぐ 善種

縄のあぐ 月

花のあぐ 正定

花舞や花よめ出立花の雲 并世 喜之

花とつらる斤目と云のこけり月 大坂 忠清

写し繪の花も白くや春包と 一武

花よ風のふちりといふ人りかき 松安

ぬ露のころ佛とくははりの花の親 一守

次子とるこころ花らるるまこと 大坂 松安

佛おや油命とせし量る花の縁 大坂 光義

ちよるまこと人のとまらるや花の若 本間 次平

たなとまらるや花とまらる花の若 大坂 三成

ちよるまこととまらるとまら花の若 大坂 清以

花袋らるるあつし時や風うらる 未元

百あつし花のころやあや庭 善種

あつしうか花やらるる花の程 月

花とまらるる花のま葉乃

中一とまらるる花のま葉乃

花よ風のふちりといふ人りかき 月

あつしうか花やらるる花の程

あつしうか花やらるる花の程 月

あつしうか花やらるる花の程 月

あつしうか花やらるる花の程 春元

天つらや青ひの空くく花作り
とひあはし胸やいふ葉の花の香山中良次
千はよひりおていたたーいふしの香 元信

花の香

もともあふなるる花や人ともめ 正種
花摘もいふやうくさい山の嶽 自母
そはくらの花や後葉のうつくし 正伯
たふぬのせせんちのせん移ん花の影 月
巫女やあうゆふ花の風うつら 月
うさうさつら花乃一こと縁 月

花入のあふいし昔野のみればは 日
あやうらふいりやあふれり花は 日
親子あういしひようらのよは花の雨田中正業
丹波布一暮いらくのく花はみ 光永
白の根ようらういふ葉の花はまじ 頼廣
花よかんといし解くあやのいあけ 可雪
万あま色のがみり山は花の枝 之富
咲けとゆうくういふ昔野のよあは川 納元
皆人いつはうらもまの花かんが 可雪
花のまよのみあうつら氣や花ん 教心

口のみつらげぬえ葉の花より
松安

一斤の重きとうたつる花の程
正伯

あうらやまをこゆあのみまの原
月

花乃原んく砂酒や底あうら寸
一雪

悪風う終りいれつる花の縁
月

花の口とらうらもくれ花藝
正種

花乃血交らうらみする花小
月

志美の花らうらや少波うら波
北村 宗清

さのとらや又まのさうら花りの
正信

南よの花のさうらと浄出うれ
舎次

月を花てこころの何ら落葉うら
一有

さのつらうらさくひらる花の物
光正

らうらうらまらあひ物う花庭
翁舟

花のらうら終りいれつる花の
末次

花くらうら花乃花も樹みうら
素白

花の味うらうらうらうら
正在

らうら花と情をうらうら
月

花やみまらうらの海うらみ
浅田 正全

花ゆくとをうらうら花のうら
大坂 路春

月れうらなふ花のうひさし
あや花もやうらうら花のうひさし
らうらめく昔もしたくや昔の心
以專
姫路
落葉子
素白

廻文

みか花のうらうら花のうひさし
うらうら花のうらうら花のうひさし
筒のうらうら花のうひさし
たえうらうら花のうひさし
塚
宗能
正全
吉長
教心

春月

勝月や花の海のわらうら
こも花のうらうら花のうひさし
くうらうら花のうひさし
らうらうら花のうひさし
あやうらうら花のうひさし
と花のうらうら花のうひさし
塚
安明
泉列
善種
重俊
正伯
不知者

追うら

うらうら花のうひさし
うらうら花のうひさし
うらうら花のうひさし
うらうら花のうひさし
素白
春元
光正

新強のし花結よのりやまの月

正伯

若和布

他合あつたせ若和布うき里の雲
 一有
 あくとつるや集乃若和布け
 道知
 足海あつたつらあつた守の繩うき
 光正
 若和布うきつらあつた海のうきあつた
 正在
 海原よこもばつら若和布うきつら
 善種
 若の浪うきつらあつた若和布
 素白
 れつらのりあつた若和布のうきあつた
 正伯

雲のうきあつた若和布うきつらの利敏が
 月
 横濱のちあつた若和布
 良知
 わつたつらあつた若和布
 知足

松若縁

ままあつたあつた若縁うき
 符知
 男松女松あつた若縁
 翁舟
 若縁え縁うき若縁
 元貞
 若縁うき若縁うき若縁
 宗畔
 若縁うき若縁うき若縁
 素白

小寺村

大坂後坂

曉と二銘乃初やあみく

素白

油巻三

九四

若銘

為合く妹婿乃中の中の小銘

紹節

若銘乃紀の川のあられ

正在

三十歳のまらのあつのまらのあつのまらの小銘

素白

くつのまらのあつのまらのあつのまらの小銘

一有

節乃のまらのあつのまらのあつのまらの小銘

善種

川乃のまらのあつのまらのあつのまらの小銘

光正

親家ものまらのあつのまらのあつのまらの小銘

月

吉野川のまらのあつのまらのあつのまらの小銘

正伯

こわのまらのあつのまらのあつのまらの小銘

月

蕨

多のまらのあつのまらのあつのまらの小銘

松安

横山のまらのあつのまらのあつのまらの小銘

以專

寸のまらのあつのまらのあつのまらの小銘

素白

鏡春のまらのあつのまらのあつのまらの小銘

茂利

梅乃のまらのあつのまらのあつのまらの小銘

氏長

まのまらのあつのまらのあつのまらの小銘

文喜

集二

七五

山を乃毛焼すらん 蕨乃年 宗安
 一川つゝおまじる 蕨や斤の葉 霖月
 蕨折や乞も梅山のよみ 月
 山人とていふく 蕨やうららひ 道可
 けり子やとていふく 蕨のよ 善種
 ちを母とていふく 蕨のよ 政舎
 ゆきけとていふく 蕨のよ 大坂 重林
 やせのよとていふく 蕨のよ 姫路 正貞
 臂綿り蕨乃よめ 三吉
 ちを母とていふく 蕨のよ 重成

埋火の香の下 蕨乃年 玉田 為重
 屋原とていふく 蕨折やうさ 正伯
 つり道たりんやらのるのつゝ 蕨 月
 ちを母とていふく 蕨のよ 正行
 敷へすよとていふく 蕨のよ 清正
 善風乃のよ お樸るよ 蕨のよ 巴村 義元
 去乃毛とていふく 蕨のよ 善本
 こも母とていふく 蕨のよ 月
 蕨折も蕨乃年中 霖月
 つゝ雪乃とていふく 蕨乃年 宗久

筋初る麿とあ子のおあへん 宗久
 味ひの空るふりつらとあ麿の那 重利
 目つらふあふりつらとあ麿 正在

燕

をおが敷おらひや海の燕美 宗時
 石よ觸らみまら雲流やつらあ 素白
 じり葉もつげつらあや燕子橋 正伯

雲雀

瘦了秘色のへく雲雀の秘座 正在
 三橋り橋あふひらりの寝座 正伯

蛙

登代よ軍下らうそり蛙う那 大坂 守置
 ありよねあふく又とむ蛙う那 光次
 気ろあてあふ入ある蛙う那 金田 正永
 いげとあふいよとある蛙う那 本也
 地獄岩の蛙のともや飛経軍 正時
 あせらふとあふらる蛙う那 昌廣

上方をまゝと虫蛇や舟中よの
 蛇乃志じらや蛙乃舟一袋
 舟後やあ乃玉花よ鳴蛙
 蛙よの蛇そとまけつと敵う舟
 えとせいとくうたどつと蛙うれ
 苗代乃蛙の言や飛の心志とる
 大海をさんくありくや初る蛙
 蛇をらん付あさう乃せとや鳴蛙
 舟戸乃あみおとと鳴蛙小
 舟の積おうくくくじう蛙れ子
 東宣
 利元
 正重
 宗安
 光正
 翁舟
 素白
 罌子
 一有
 正在

濁ああのうあようこくくく
 乙あろえ佐和やあす
 くらあろこ引とろろく蛙う舟
 正伯
 月
 月

蛇岩乃乃云家の舟よ
 まろろあさく

舟よじやいけ家蛙のあ乃乃
 舟乃の舟うた久竹田よ宛蛙
 蛙子の派揺りや鳴孫つと
 舟よじの小河さるりり田の蛙
 うと捨くあよるまうる小池小
 善種
 交子
 重助
 勝直
 松安

姫路加用

いんいんいんお軍よよさるらあまの蛙 前田 定勝

雉子

雉子の声々山は額の眉るか 春元
 子あやうはあといはあとのあさうと 罌子
 はまーあまいさうく雉子はあまが 大坂 貞因
 妻のあはるくく雉子さ山はあま 正伯
 山はあやうはあといはあとのあさうと 同
 雉子やうはあといはあとのあさうと 素白
 焼るさうはあといはあとのあさうと 善種

蝶

極戸とさあまあまといはあとのあさうと 卷田 一十
 奥山乃花よの蝶やうけの舞 一有
 花乃あま推古の北代り蝶乃舞 素白
 急す蝶あまらりさうく舞のうり 知泉
 仙人らあまのはるさあまの舞 村山
 中乃あまあまの付くや蝶乃舞 宗安
 百乃あまあまの付くや蝶乃舞 横山 秀親
 天津乃あまの付くや蝶乃舞 利元

くらんておつる花や物敵とつく蝶
 夏よたたりとらんるの度み蝶のな堺
 三千作りまゆらつらつる守の蝶うな
 別乃るまうすまの圃よの年胡蝶京
 おさわつまき亭夷の花よおる胡蝶宮崎
 花あよ蝶まつやよあつらゆやの法
 おがむ何者なる胡蝶まきあ合
 子ゆへやう蝶つひの蝶のねの年
 ちよへふ蝶葉のなよとまら蝶もる
 初花よその蝶乃蝶や新し物
 伊達
 成元
 素白
 元時
 是信
 頼廣
 正伯
 同
 同
 元利

廻文

ひまらつらとまらじやまらしてまら年大坂
 正永

椿

浦鳥うよとらひのやとじら玉桂
 七貫の極うん花り敷椿
 地うへ肥あつらつく玉桂
 茶茶うや坪乃内らるちり桂
 玉桂乃玉やららまらる枝の香
 平勝
 宗研
 素白
 善種
 同

廻文

よふいふさるるさるるさるるさるるさるる
忠政

萱

紫乃花とや人ををりてすれ
 野を焼てふとをを萱の非
 元も色と出よとある萱の非
 まるるおの角よとある萱
 花乃魚よとある萱のまゝ
 萱のわ花むとある萱
 内野をわいとある萱のつが萱
 宗畔
 一武
 素白
 善達

色よりけとある萱の眉すれ
 温よりとある萱のつが萱
 宗畔
 正伯

桃 付上巳宴

うふ花やとある仙洞も
 花よがらうの外のまをえ桃枝
 見よのむや一人の桃の酒
 うふとある桃花や二千の解
 曲あり宴あや下戸もひよの酒
 こころあはらうとある日のまを解
 北村
 宗清
 光正
 善明
 幸以
 一有
 月

酔ふは花さきこころあつらん 桃の酒 光正

やよひつらあふやいらん 桃の弓 正在

三千とせよあつ 藤とまきし 桃の花 月

おさあひのりすくさるやあつ 桃の酒 京 定勝

おまもろして下こころあつ 桃の花 善種

あふるふ柳葉のま綿う 桃の弓 月

花うらうらうていそんまの宿 月

ぬる花の。

もまきくせよあつ 桃の花 月

桃門や花よ茶耀る 湯の宿 月

桃の酒さすころあつ 桃の花 大山 総直

田舎こころあつ

はまのあつ 桃の花 翁舟

色まきしあつ 桃の花 月

あんとく 桃の花 横田 屋重

花うらうらうけさる 桃の花 宗時

くさるといふ 桃の花 貞長

花てあつ 桃の花 自安

ももる 桃の花 春元

口知くあつ 桃の花 月

焼餅の熟り春の野の暮の餅 頼廣
 結てし色あひおもひぬれ桃の 正種
 衣服をさし違へらわや襤り内 翁舟
 一とつてまきまき白くまき桃の 正伯
 桃園へ歩りまのありわう非 月
 物まざることせやま福さ桃の 月
 桃の光や風よまらへら柳腰 正次
 糖竹の日記も七九上巳く非 玄保
 ねらま子あふらやふいと桃の 嘉雅
 初てうとふてりしとや桃の 一雪

曲あゆの詩を釣針うとての月 勝直
 曲あゆのうらとをひたあきけり 貞晨
 桃乃酒光の流や柳一橋 重吉
 つくさかりと午とせ光乃百車 素白
 桃の酒百なる砂や鶺鴒豆 月
 膝承乃月いさうらうとての桃 月
 せは空守九日さうくれし
 そあつるや葉師を守平暮の餅 月
 うみのまは野の暮の色らあき 月
 こま〜乳をまらうら光房桃の 月

廻文

桃の野を花の野に花ハ園の桃

賜日 俊雅

躑躅

さし祿のさし祿ふさしん併躑躅

幸全

らさささあんのささきんけとさ躑躅

正盛

氣立さささやさささもあつ併し

素白

花と約しあつる躑躅のささけうれ

森山 秀房

さささ岩とふさささささ併し

松原 安致

数折やあつるささささの併し

小寺 秀盛

躑躅とささささささささのさささ

一有

え分て下戸のささあや併し

重正

花守やつるささささ併し

京 定勝

山の腰とささささや花のささつし

正在

ささささささささささの併し

京 勝元

併るやささささの併し

宗時

ささささささささささの併し

日

躑躅の花山の併し

光正

花守やささささの併し

春元

ささささささささささの併し

善種

海棠の芳や後恵乃多入
乃の純りうむ海棠の花の芳 大坂 貞因
海棠の落花の移りゆく外 正種
海棠も色褪つとよもやものいさ守 正伯

呼子も 并 百子も

うとうや親の脇めく呼子も 前田 正勝
信太くい流の勢う呼子も 光正
あふとくい流の勢う呼子も 素白

うひのあふ鳴てふ勢や百子も 善種
百子もとちうひのあふ百子も 郡山 正辰
らる花乃流のう鴨う百子も 大坂 正時
おのうりあう又恵りあう百子も 一有
花とあじやぬのあふの百子も 正在
一声や結して結してう百子も 素白
名もとちうりあう花の百子も 光正

藤

さかかたうらうらこの藤よ友の花 素白

山乃や物然たつてのくさうり友
 余不月とる人よまらつれ友の花
 えいさうとて花も友つたの鳥れ
 花もひらく友乃丸又田子の浦
 うんうり乃縁う紫の友うら
 うらうと花神のときこつた友
 雲の縁とつとりの友やよ海の花
 移ら者ともうらうらる友うら
 うらうとくうらうら友の花ん
 かんうのふつあうらうらん松よ友

大坂
 守知
 三知
 等侯
姫路泉養寺

花も友の花うらうとて友の風
 咲若くは織乃布の棚さうし
 吹向のよらうら友乃花
 移ら友乃花やらんこのおま
 るまきし山うらうら友乃花
 うらうらよのらうら友
 鳥松い松よとら友乃花
 房を長し友うら松のうら
 るとあひと花や次友のうら

姫路
 正舎
 不程者
 重利
 重吉
 宗庵
 素白
 月
 廣友
 勝明
 自安

沈香二

二六

松と友や物まきあして伝連松
友派とすうしてかきこい園能也
友の棚の下してのうまやふ念慈
花見酒よまやまうん友の派
暖中よらうらう友の門げうら
三尺の友のまきえも 鋳り排
池の波の紋あうらうや友のま

可雪
納元
教心
一雪
安成
正伯
月

後園へ花かんよまうらう社
顔の友とらふわうことと然者
うらうらうらう

友派のうらう棚もや川社
神垣やうらう一の友のまうらえ
友うらうまうらう神友のま并
まのま友ハまのうら友のま
まや友暖神の 清正神
友派ようらう人のまの蛭子の飛
後乃園や社顔の倍のうら友
友うらう陽津揚のまの後園
めらうらうや友暖門のま

正壽
正伯
正在
光正
會次
素白
一有
善種
翁舟

山吹

山吹の花を黄なるる一有
 山吹のほらさや丹子の花正伯
 山吹や芝柳のらちやうさか花子月
 花装束る山吹の錦比正在
 花といふらん山吹の雲の素白
 款をや金陵一乃花の将月
 山吹や上のてんとし然花の色月
 款冬乃花や金陵の塔の花善種

山吹のららや酒鉢の花と光正

辛夷

親らぬとりの家ゆふら^{穀内}紹節
 花の風志をがら^{素白}
 うら^{善種}
 教時や花の^{正伯}
 咲花の^月

水日

春は日のあつちや中地やま日山
 宗時
 永は日思や天地のるるあおさ
 塩山 知礼
 永は日思きこのやまふあむじ
 勢別 加友
 新あつち日はあつちも朱点の痕
 善種
 うあつち思ひこあつち銘の方外
 一有
 永は日思やおのん冬のとつこの月
 正在
 ちし思ひあつちあつちあつち
 素白
 つめたんあつちあつちあつち春日
 道可
 永は日思え人をそつちあつち
 正伯

人丸海式

花よらじややらんかん柳花
 正在
 ひもつらん乃紙よ書よれ花の方
 善種
 舌乃眼くよあつちれ雲の月
 素白
 ひまほら葉持乃花のうさこのか
 正伯
 花よらつちあつちらんあつちあつち
 光正
 人丸もろあやハ鳴乃あつち
 一有

牙拭 付壬生千本念佛

去年あひく産陽や今年あつち
 中嶋 貞辰

ようやくもやうく一歩も試やぬ其山 善種
 身試ふ出たもまよひ十九日 素白
 梅檀のさうらんめくや身試 正伯
 之を身試ふ心腹やまん身試 ^鳥 利正
 比叡くう孤獨と見え生念佛 素白
 能くらしも生念佛やうらうらく 貞晨
 ふひやくのせんか念佛とせん知れ 正伯

春歌一云

物う所う二月 中一句歌一云 光正

春鳴や花をとり守の時とほし 重勝
 母の言も新うの生そがとほし 一有
 花よのつとま宵一歩かま守 素白
 春えらまのやみすのあまきん 翁舟

三月盡

花すまひのひのひの春の言 正在
 花くやまうらうの三月の言 頼廣
 節代くうまをくも三月盡 素白
 まの日はまうらうの言 阿

少と摘の茶葉といふらん字治候
 定係あつて余不あつて心やん茶
 係氏あつて乞も未摘茶急所
 おあつてつらつらつ然あけ驚の鳥
 巢まじつる終よの驚もつらつ所
 つらつらつや尋あつる鳥乃子
 鴨や山鳥あつて尾長鳥
 雀乃森動字候あつ
 新よのひ然うむむや雀のりりそそ
 確乃さか雉よのれとと相小

正在
 幸以
 松安
 月
 知重
 忠清
 正在
 春元
 吉長

廻文

中い書乃菓もつて鵲乃一羽
 こつらつしとるんもむむの白毛

光次
 春元

沙金袋



